

## 3D 変換ツール : エアバス社は長期保存エンジンに 3D Evolution を認定

2015 年 11 月 27 日

エアバス社が長期保存エンジンとして特定のソフトウェアを認定した背景には、航空宇宙産業におけるデータ管理の重要性が深く関係しています。この認定は、LOTAR (Long Term Archiving and Retrieval) の取り組みの一環として実施されました。LOTAR は、製品ライフサイクル全体にわたってデジタルデータを長期的に保存し、それを正確かつ信頼性を持って再利用するための国際的な標準化プロジェクトです。エアバス社は、このコンソーシアムの積極的なメンバーであり、データ保存および検証の分野で革新的な技術を導入しています。



この認定において特筆すべき点は、エアバス社がデータ変換における STEP AP242 フォーマットの役割を重視していることです。STEP AP242 は、CAD (コンピュータ支援設計) データの交換および保存において、広く採用されている国際標準フォーマットです。このフォーマットは、特に製造業や航空宇宙産業において、異なるソフトウェア間でデータを正確かつ一貫性を持って交換するための基盤として機能しています。エアバス社は、STEP AP242 フォーマットを用いることで、製品データの長期的な保存およびアクセス可能性を確保し、将来的な設計変更や再利用においても一貫性を保つことを目指しています。

この取り組みを成功させるためには、データの正確性を保証する検証技術が不可欠です。エアバス社が認定したソフトウェアは、CAD データとその関連プロパティを検証するための高度なアルゴリズムを備えています。この検証プロセスでは、CAD データを STEP AP242 フォーマットでエクスポートした後、それを元のデータと比較し、一致性を確認します。具体的には、PMI (製品製造情報)、アSEMBリデータ、可視化データ、ボリユーム、サーフェス、重心などの主要なデータ要素が検証されます。これにより、データ変換時に生じる可能性のあるエラーや欠陥を最小限に抑えることができます。

さらに、この検証技術はデータの信頼性を高めるだけでなく、エアバス社が求める厳格な品質基準を満たすものでもあります。航空宇宙産業におけるデータ管理は、安全性、効率性、コスト削減の観点から極めて重要です。そのため、エアバス社は、データ管理において最先端の技術を採用し、それを継続的に改良することに取り組んでいます。

エアバス社とソフトウェア提供企業の協力関係は、単なるツールの提供にとどまらず、長期保存の基準策定や技術開発にも及びます。これにより、エアバス社は自社のデータ管理プロセスを強化し、航空宇宙産業全体におけるデジタル変革を促進しています。この協力関係はまた、LOTAR プロジェクトの目標であるデータ保存および再利用の国際標準化にも貢献しています。

エアバス社が認定したソフトウェアは、特にその高速性と信頼性の高さで評価されています。データ変換や検証のプロセスは、通常、膨大な計算資源と時間を必要としますが、このソフトウェアはその効率性を大幅に向上させることに成功しています。これにより、エアバス社はプロジェクト全体のコストと時間を削減しつつ、品質を維持することが可能となっています。

このように、エアバス社が特定のソフトウェアを長期保存エンジンとして認定した背景には、航空宇宙産業におけるデータ管理の高度化と LOTAR プロジェクトの目標達成への寄与があります。この認定は、デジタルデータの正確性、信頼性、再利用性を保証するための重要な一歩であり、航空宇宙業界全体におけるデータ管理の未来を切り開くものといえるでしょう。